



# オリンピックに向けて 何ができるか考えた

メディアコミュニケーション学部  
マス・コミュニケーション学科主催講演会

「スポーツとメディア報道  
東京オリンピック・  
パラリンピックに向けて  
何をすべきか」

駒木祭の2日目、11月3日に、左記の表題の講演会が開かれた。元体操オリンピック選手でタレントの池谷幸雄さん、大阪経済大学准教授の相原正道さん、そして東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から田中丈夫さん

の3人がオリンピックについて講演した。最後には参加者全員で、これからの東京オリンピック・パラリンピックに向けてみんなで盛り上げていくことを確認した。(取材: 日高那侑 撮影: 土居省吾 日高那侑)



東京オリンピック・パラリンピック  
競技大会組織委員  
田中丈夫さん



体操オリンピック銀メダリスト  
タレント  
池谷幸雄さん



大阪経済大学准教授  
相原正道さん

田中丈夫さんは、持続可能性部長として、環境・社会・経済を含む「持続可能性」に配慮した競技大会実現をめざしている。

田中さんは私達がオリンピックに向けてできることを教えてくれた。まずはボランティアだ。選手村でスポンサーとして参加することが一つ。

そしてもう一つが、オリンピックを文化活動と捉えて、自ら積極的に関わってみたい。

今、実践女子大学が起点となり、ワークショップを開催するなか、多くの大学では、学生達がオリンピックを盛り上げようと自主的に活動している。

日本では「文化」というと伝統文化と狭く捉える人も多い。だが、スポーツも文化だ。オリンピックを契機に新たな文化をつくることを提案してくれた。

### オリンピックに向けて大学生にもできること

池谷さんは高校生の時にオリンピックに出場しメダルを獲得したことで、人気アイドルようになった。ソウルで銅メダルをとって自宅に帰宅すると、待っていたのは全局のテレビカメラだった。翌日から3日間通っていた高校の校長は通っていた高校の校長

室でテレビ、雑誌、新聞の取材を受け続けた。

いまはタレントとして活躍する池谷さんだが、ソウルオリンピックが開催された頃の日本は、アマチュアとプロの差が激しく、ニュースか報道番組にしか出演することができなかったと語った。

しかし高橋尚一さんがオリンピックで金メダルを取った後、プロ宣言を行ったことで、日本のアマチュアとプロの差が縮まり、現在のようにオリンピック選手がバラエティ番組にも出演することができるようになったと語った。

### アマチュアリズムと報道の関係はいつかわったか

相原正道准教授はオリンピック招致の背景に詳しい。2016年の東京招致はうまくいかなかったが、2020年は成功した。その背景を説明してくれた。

オリンピックを東京に招致するにはまず都知事が宣言することから始まる。経済的に孤立しているお台場の背景には法律ができたかを、東京の都市経済の循環の中に入れることが招致の目論見のひとつであった。

2020年に招致が成功した理由として、滝川クリスタルの「お・も・て・な・し」や震災のことがさかん

に報道されたが、じつはそれに繋がったという。

その法律がスポーツ基本法である。今まで各都市が行ってきたオリンピック招致が、国の支援を受けることができるようになり、成功に繋がったという。

### オリンピックを招致するためにも法律が必要